

4-1 道づくりの取り組み

■山陰道の整備（広域的な交流・連携の促進）

- 山陰道は、鳥取県から山口県に至る約380kmの高速道路。
- この道路は、鳥取・島根・山口3県の主要都市を東西に結び、移動時間の短縮や、空港・港湾へのアクセスの強化を図ることにより、各地域間の交流・連携の強化及び推進、山陰地方の産業・経済の発展や観光振興を目的として整備を進めている。
- また、災害に強い国づくりを推進し、更に活力ある地域社会を形成するために、地域の自立的発展を支援する視点からも重要な路線。

■鳥取県内の山陰道整備状況



4-2 山陰道の整備

■北条道路の整備

2020(R2)年度事業費：3,170百万円【事業推進】

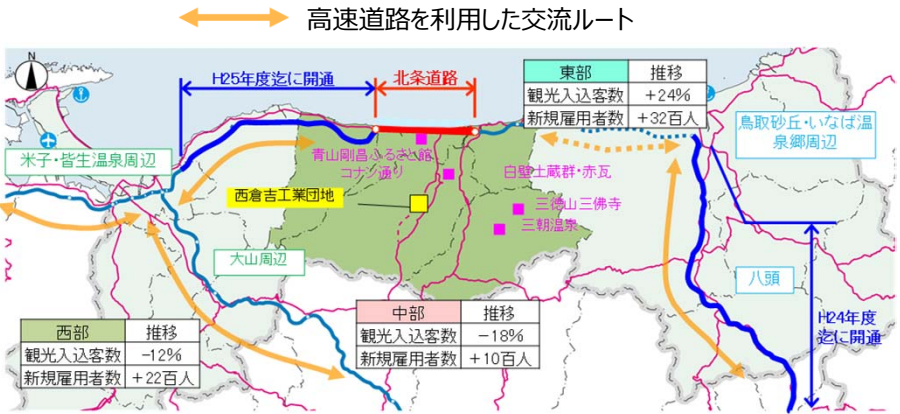
- 北条道路は、鳥取県東伯郡湯梨浜町はわい長瀬から東伯郡琴浦町槻下を結ぶ延長13.5kmの自動車専用道路で、鳥取県内最後の山陰道整備区間として2017(平成29)年度に事業着手。
- 2020(令和2)年度は、用地買収、道路設計、改良工事、橋梁工事等を推進。



■期待される整備効果

- ◆ 交通の適正な機能分担による安全性の向上
 - 通過交通と生活交通が分離され、安全で円滑な走行環境が形成される。
- ◆ 観光地の活性化・企業進出の促進
 - 観光周遊ルートが拡大し、鳥取県中部への観光客数の増大が期待される。
 - 時間短縮、定時性確保などにより、新たな企業誘致の促進と雇用の確保が期待される。

【鳥取県の観光・企業活動の変化 (H29/H18)】



(出典) 鳥取県観光入込動態調査 ※西部に境港周辺は含めない
 (出典) 鳥取県商工労働部、立地戦略課のヒアリング調査



◀写真① 国道9号を通過する大型車
至 鳥取市



▲写真② 大栄東伯ICより鳥取市方面を望む
至 松江市

4-3 山陰道の整備

■米子道路の整備

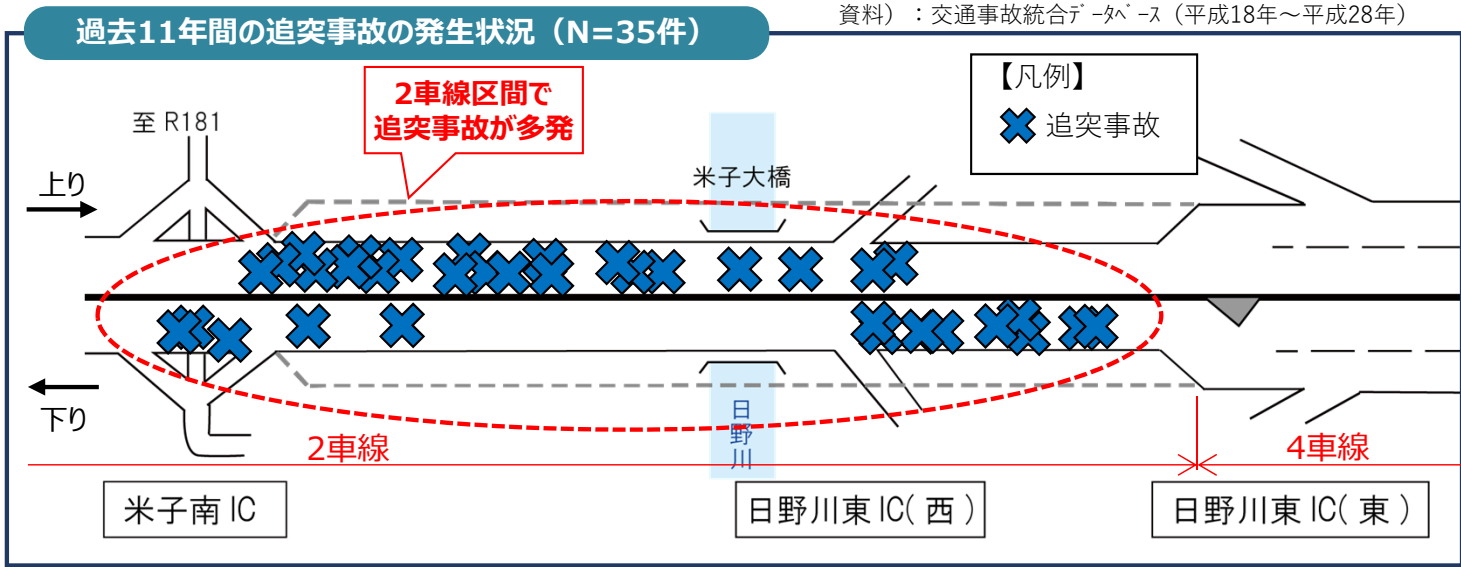
2020(R2)年度事業費：555百万円【事業推進】

- 山陰道 米子道路は、西伯郡大山町及び米子市内の交通渋滞の緩和及び交通安全の確保を目的とした延長14.2kmの自動車専用道路。
- 山陰道 米子道路の日野川東IC～米子南ICでは、渋滞による追突事故が集中的に発生しており、交通阻害箇所の走行性、安全性の向上を図るため、付加車線を設置する。
- 2020(令和2)年度は、改良工事、橋梁工事等を推進。

■2020(令和2)年度事業予定箇所



【写真①】米子南IC付近の渋滞状況



4-4 安全・安心な暮らしを支える

■湯梨浜・北栄地区事故対策事業

2020(R2)年度事業費：384百万円【事業推進】

- 国道9号の湯梨浜から北栄間は、一般道の長い直線が続く区間で、スピード超過しやすい区間となっており、長瀬浜入口交差点、新川・浜入口交差点、新旧国道313号との交差点で、信号停止車両への追突や右折車両への追突や右折車両との正面衝突が多く発生し、死亡など重大事故が発生しており、本事業はこれら2区間の交差点立体化による事故対策を行い、事故削減を図るものである。
- 2020(令和2)年度は、北栄地区の調査設計、用地補償、橋梁工事等を推進。



北栄地区の状況 (写真①)



(撮影：2017年11月28日)

北栄地区の状況 (写真②)



(撮影：2020年3月20日)

湯梨浜地区の状況 (写真③)



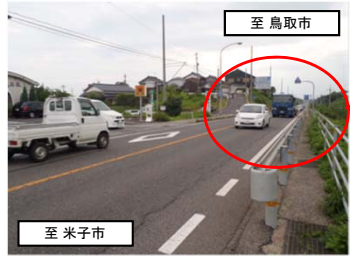
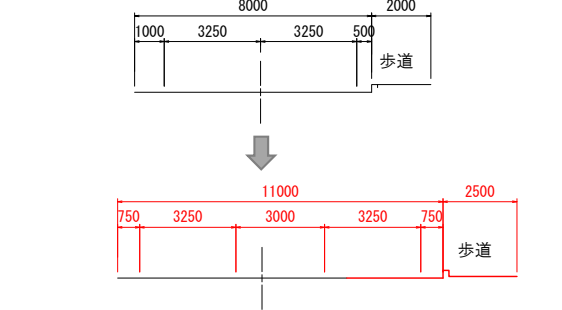
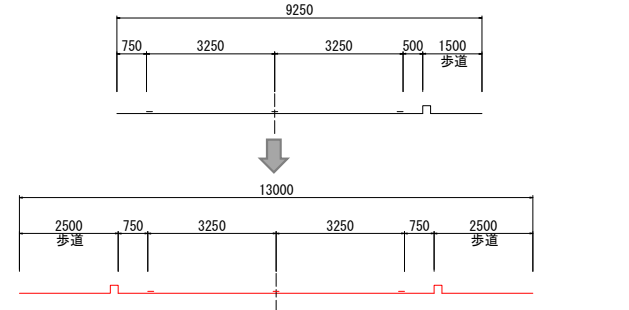
(撮影：2019年4月27日)

4-5 安全・安心な暮らしを支える

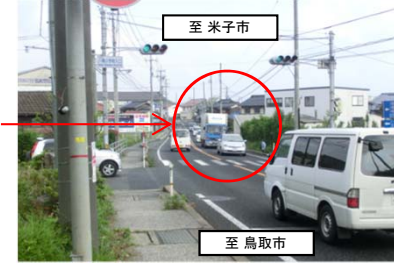
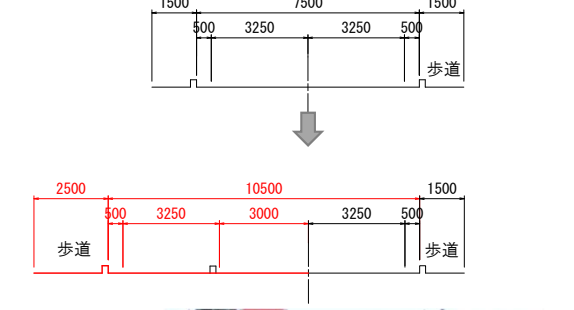
■ 交差点改良事業 / 歩道整備事業

2020(R2)年度事業費：165百万円【事業推進】

- 一般国道9号に右折車線が無いいため右折待ち車両による直進車両の進行阻害や追突事故が発生している箇所、また、通学路に指定されているものの、歩道幅員が狭小であるため非常に危険な状況となっている箇所に、右折車線新設や歩道整備を行い、安全・安心な道路空間の確保を行う。
- 2020(令和2)年度は、調査設計、用地買収、工事を推進。



右折待ち車両による進行阻害



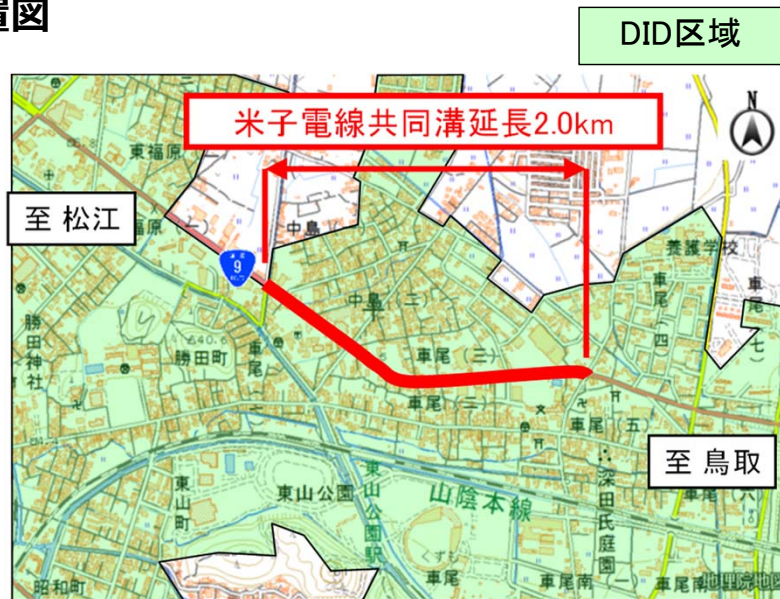
4-6 安全・安心な暮らしを支える

2020(R2)年度事業費：180百万円【事業推進】

■米子電線共同溝事業

- 米子電線共同溝は、電線共同溝を整備し無電柱化することで、安全で快適な歩行空間の確保並びに震災時における緊急輸送道路の確保を図るとともに、良好な都市景観の形成に向けたまちづくりの支援を目的とした事業である。
- 2020(令和2)年度は、調査設計、関係機関協議、工事を推進。

■位置図



出典：国土地理院「地理院地図(電子国土Web)」

■期待される整備効果

道路上から電柱がなくなることにより、安全で快適な歩行空間の確保が図られ、震災時の電柱倒壊による通行障害の危険性がなくなるため、災害時にも道路の機能が確保される。

また、電線がなくなることにより、良好な都市景観の形成が期待される。

《整備の必要性(イメージ写真)》

- 道路上に設置されている電柱は、災害時の倒壊により道路を閉塞させるおそれがあるほか、歩行者等の通行や良好な都市景観の形成の妨げとなっています。



<電柱の倒壊による道路閉塞の事例>

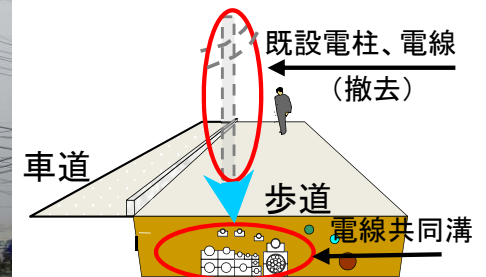


<歩行の支障となる電柱の事例>

【現況写真】



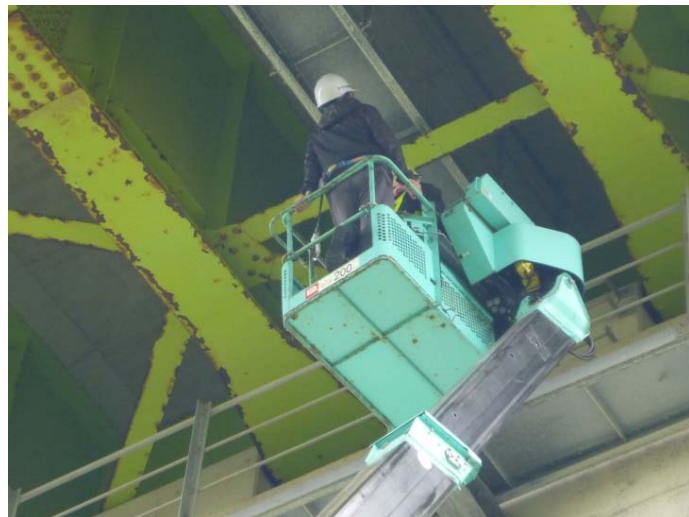
【イメージ図】



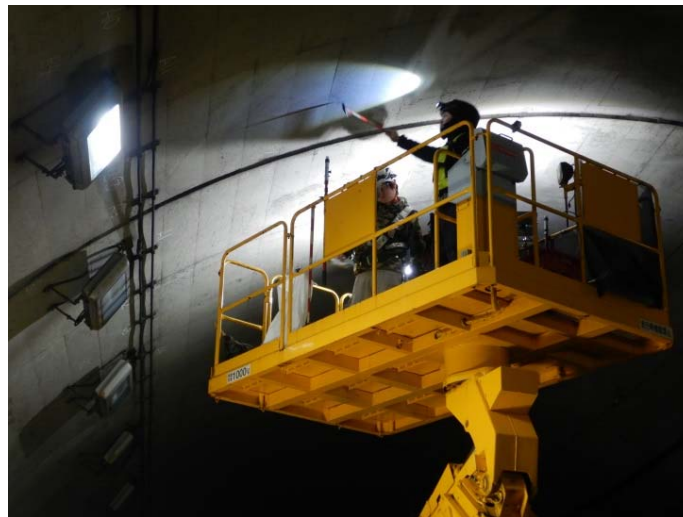
4-7 老朽化対策

■ 橋梁補修など

- 定期点検により橋梁、トンネルの状態を把握し、早期発見・早期補修の予防保全を計画的に実施し、安全性・信頼性の確保と橋梁のライフサイクルコストの縮減を図る。
- 2020(令和2)年度は、青谷高架橋、新日野橋などで橋梁補修工事を実施予定。



▲ 橋梁点検実施状況



▲ トンネル点検実施状況



▲ 橋梁補修工事予定（青谷高架橋）



▲ 橋梁点検講習会（自治体支援）実施状況 ▲



4-8 道路管理

■ 道路の維持管理 一般国道9号及び山陰道（自動車専用道路）

- 一般国道9号は、京都市から山口県下関市に至る主要幹線道路です。当事務所では、鳥取県東伯郡湯梨浜町小浜（鳥取市境）～鳥取・島根県境までの国道9号 延長約125km（うち、山陰道延長約57km 鳥取市青谷町～米子市陰田町）を管理しています。
- 道路の整備をはじめ、維持・修繕・交通安全対策・環境対策などの取り組みを行っています。

■ 維持管理 作業状況



▲道路巡回における異常箇所等の発見



▲路面清掃車による路面清掃



▲路面（アスファルト舗装）の補修



▲植栽帯の剪定作業



▲除雪グレーダーによる除雪作業



▲異常時（大雨等）の応急作業

■ 道路緊急ダイヤル（#9910）のご紹介

道路の穴ぼこ、落下物や路面の汚れなど、道路の異常を24時間受け付けています。

- ・電話番号 全国共通#9910（24時間受付、無料）
- ・「#9910」をダイヤル後、自動音声ガイダンスにしたがって、番号を選択してください。
- ・担当機関へつながりますので、異常を発見された場所、状況などをお伝えください。
- ・運転中の通話は道路交通法により禁止されています。安全な場所に停車してからのご連絡をお願いします。

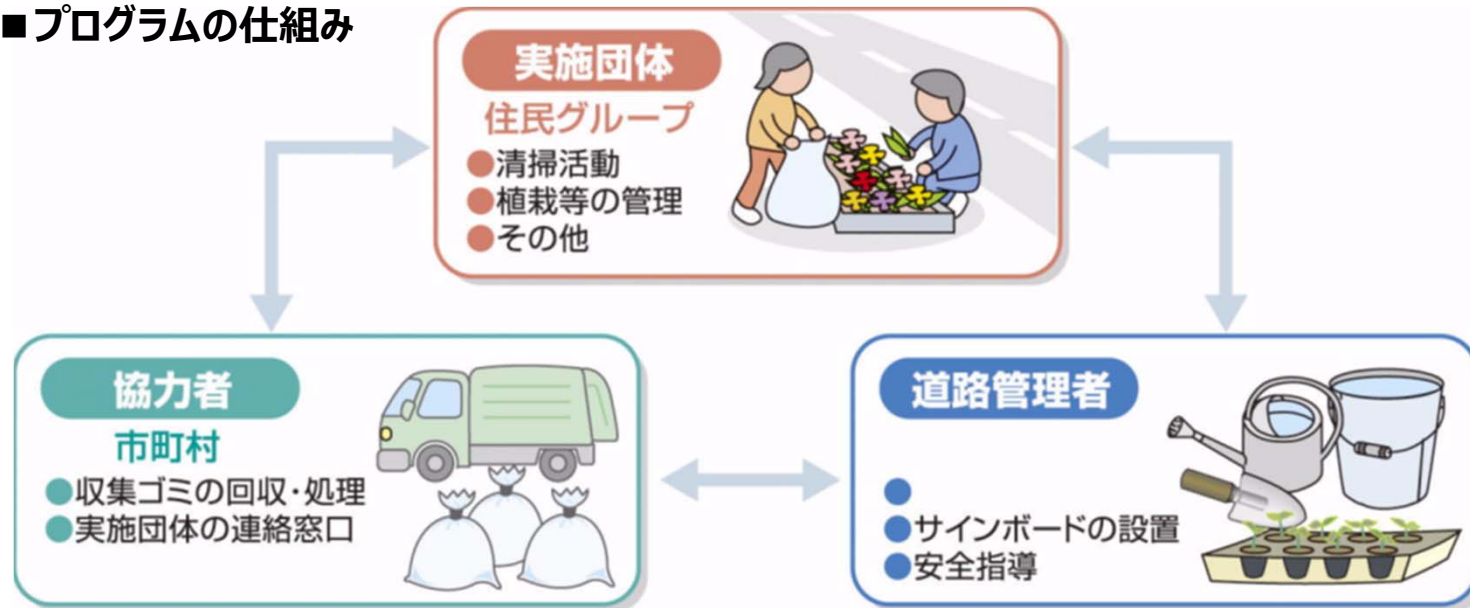


4-9 地域との協働

■ ボランティア・サポート・プログラム

- 「ボランティア・サポート・プログラム」とは、地域住民・地方公共団体・道路管理者が協力して道路の清掃美化活動を行い、道路への愛着を育てるとともに、道路利用者のマナー向上を啓発することを目的としている。
- 倉吉河川国道事務所管内では、2020(令和2)年3月時点で、35団体が積極的に活動を行っている。

■ プログラムの仕組み



▲ ボランティア・ロードin米子



▲ ボランティア・ロードくずも



『道の駅』を起点とした地域活性化(道の活用検討会)

倉吉河川国道事務所

■『中部地域の活性化と「道の駅」の活用』について考える (2019 (令和元)年度の取り組み)

- 一般市民と県中部地域 1市4町の職員が『中部地域の活性化と「道の駅」の活用法』について検討するワークショップを実施。
- 令和元年度は『あなたならどんなスポットを提案? 地域の魅力再発見』をテーマに、地域のゲートウェイ「道の駅」を起点として、立ち寄り客が素通りせず、道の駅周辺の地域周遊・散策に興味を持って頂くような情報提供のあり方を検討。(道の駅「大栄」で試行。)
- ワークショップで議論し、周遊ルート(案)、各スポットの魅力や課題、情報発信方法のあり方についてとりまとめた。

ワークショップ出席者

一般参加者
倉吉市, 三朝町, 湯梨浜町, 琴浦町, 北栄町職員
倉吉河川国道事務所
コーディネーター
地域づくりネットワーク代表 福田京子さん

ワークショップのスケジュール

考える

第1回ワークショップ (R1.9.28)

2グループに分かれて、地域の魅力資源や美風景、インスタ映えスポット等をピックアップ。道の駅「大栄」を起点として、ピックアップした魅力資源等を繋げる周遊コースを考える。

確かめる

第2回ワークショップ (R1.10.26)

第1回WSで考えた周遊コースを、実際に自転車や自動車により現地で体験・点検。ピックアップしていた魅力資源や、現地で新たに発見した魅力資源を図面へ落とし込む作業を実施。提案コースの妥当性や周遊コースを周知するための方法、また周遊するのに必要な施設などについても考察。

まとめる

第3回ワークショップ (R1.11.23)

前2回のワークショップ結果をもとに、PRしたい魅力資源の絞り込み・PRポイントを取りまとめた。また、どうすれば道の駅を訪れた観光客に設定したコースを周遊してもらえるか、情報発信・PR方法についても議論しとりまとめた。

ワークショップの実施状況



既存の観光情報や参加者の考える魅力資源等を元に周遊ルート(案)を議論。



周遊ルートマップとりまとめの議論を行い、各班の議論結果を発表。



現地で自転車等により周遊ルート(案)を体験。机上では分からなかった新たなスポットや体験を通じて感じたことを記録。



周遊ルートマップでは、写真、PRポイント、スポットの魅力、改善が必要な点などを整理。